

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174701037		
法人名	医療法人 前田クリニック		
事業所名	グループホーム うらら		
所在地	上川郡清水町南1条3丁目20-2		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、医療法人が設立したホームの特徴として、医療連携が充実しており、健康面ではかかりつけ医や看護師と相談し合え柔軟な対応をする事ができ、本人、ご家族からは安心できるとの声が聞かれています。入居者が常に主体とした生活が過ごせるように環境作りや、支援に心がけ地域の方々協力を頂きながら、地域に開かれ愛されるホーム作りに努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174701037-00&amp;Se">mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174701037-00&amp;Se</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人前田クリニックが運営しているグループホームうららは、清水町の中心部に位置し、道路を挟んで母体法人の前田クリニックがあり、ほとんどの利用者のかかりつけ医となって、医療面での安心感が得られています。開設時からの理念「グループホームの生活の中心に利用者がある」を掲げ、管理者、職員は家族と協力しながら地域の中で利用者一人ひとりがその人らしく暮らして行く事を目指した支援に努めており、家族からの信頼も厚く、何でも言って貰える関係を築いています。事業所の運営の一つ一つが職員の意向を取り入れながら丁寧になされており、その一つとして、職員の自主性を育てる委員会活動(安全対策・感染対策・虐待及び身体拘束・サービス向上・行事)をはじめフロア会議の進行や記録も職員が交替で行っています。又、虐待に関するアンケートを年3~4回、職員ストレスチェックを年2回、加えてユニット目標や事業計画に対しての職員の自己評価を実施して職員の意向や意見を表明する機会を多く設けています。記録類も介護計画実施状況を含め分かり易く整備されています。利用者の事故防止に繋がるヒヤリハット記録には～気が付いてくれてありがとう～の言葉が添えられ日頃ヒヤリハットを提出する事がマイナスに捉えがちな所を優しくプラスとして受け取れる様に配慮され、介護計画に反映されています。事業所では各ユニット1名の夜勤者の他に、電話番号という係を設け、職員交代で自宅待機し、突発的な事態にはサポートに入る体制が取られています。今年度はコロナ禍で様々な行事が中止となってしまいましたが、本来であれば夏祭りやクリスマス等を兼ねての家族交流会で利用者、家族、職員、クリニック職員、院長が集い楽しいひと時を過ごしたり、外出行事も多く計画していましたが、今年度は室内で行うレクリエーションやおやつ作り等工夫しながら充実した毎日が過ごせる様に工夫しながら取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の届く場所(ステーション内・玄関)に掲示しており、理念の中を共有し実践できるように取り組んでいる。	開設時からの理念を目に付く所に掲示し、意識しながら介護提供しています。理念は半年ごとに確認し実践に努めています。更に理念を具体的に取り組むべく目標、フロア目標を作成しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属している。コロナ禍の影響により行事等が中止となり地域との交流は出来ていない。	町内会に加入し、町内会の行事に参加すると共に事業所の夏祭りには町内会役員を招待しています。毎月継続してボランティアの方が訪問し利用者とのふれ合いの時間を持っていたり、高校生の訪問があり、利用者に喜ばれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修や講習会に参加し、職員自身の知識を高めているが、地域に向けた取り組みは実践できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、会議は行えず紙面で報告のみ行っている状況である。	利用者家族、民生委員、第三者委員、行政職員、同業者職員等が参加して定期的に開催していましたが今年度はコロナ禍の為書面での開催と成っています。報告書面は全家族、関係者に配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者やケアマネを通じ、町の担当職員からアドバイスを頂き、GHの質の向上に努めている。	行政とは常日頃より、情報交換や相談等に努めています。町主催の地域ケア会議には毎月出席し連携を深め、事業所の運営に反映しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が中心となり定期的にアンケートを実施し、行なっているケアが身体拘束に繋がらないか等、話し合いの場を設けている。また、運営推進会議でも議題としてあげている。	各フロアの職員が参加して虐待及び身体拘束委員会を開催しており、委員会が中心と成って3~4ヵ月毎に虐待に関するアンケートを実施して振り返りを促し、運営推進会議でも報告をしています。研修も計画して行なっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり定期的にアンケートを実施し、虐待に繋がらないか等、話し合いの場を設けている。また、運営推進会議でも議題としてあげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者から説明を行ない、不安や疑問点があればその都度説明をし、ご本人やご家族が十分に理解したうえで契約を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等がいつでも意見が出来るようアンケートボックスを設置している。	家族の訪問時には状況を説明し意見や意向を聞き、3ヵ月毎に写真を掲載した事業所だよりを送付しています。夏祭りや家族交流会を開催し利用者、家族、職員が一体となって楽しいひと時を過ごしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアの会議や全体会議に管理者も参加しているため、話し合う機会を設けている。また、会議以外でも必要に応じて話し合いの場を設けている。	管理者はフロア会議や全体会議時、日常業務時に職員の意見や提案を聞く機会としています。又、委員会活動や会議時の進行や記録を職員が担当し、職員の自主性を育てています。内部研修を毎月計画的に実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ就業規則を変更するなど職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修をしている。コロナ禍の為、集まらない時は書面を配布し周知する事もあった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はコロナ禍の影響でほとんど交流できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査、ご本人の言動やご家族からの情報をもとにスタッフ間で情報を共有している。不安な面をサポートし安心して過ごせるよう環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の調査やアセスメントを行ない、ご家族の不安も解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の調査やアセスメント、ご本人やご家族の要望が確認しやすいよう環境作りを行ない、ケアプランを作成し支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除を職員と一緒にしない、利用者と職員が生活の中で助け合い互いに支えながら関係づくりを行なっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来所時に本人の状態を報告し、必要に応じてご家族と相談し協力を得ながら共に支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の感染状況によるが行きつけの理美容室行ったり、入居前に近所だった方が差し入れを持って来てくれている。	コロナ禍以前には友人や知人が訪ねて来たり、行きつけの美容室へ出かけていましたが、現在は電話で話をしたり、編み物や手芸を楽しんだりと利用者のこれまでの関わりや趣味、習慣を大切に支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や生活歴を把握し、リビングに集まった際も共通して話せる内容を提示するなどし必要に応じ職員が間に入り孤立しないよう気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約終了後も年4回の季刊誌をご家族に送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中や会話の中で本人の希望や意向の把握に努め、対応を検討している。	管理者、職員は利用者との会話や様子から意向の把握に努めています。意思表示の出来ない利用者には生活歴やこれまでの関わりを参考に表情等で意向を把握し職員間で共有し実現に向けて取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴、サービス利用の経過は一人ずつファイルにまとめており、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変わった事があれば記録に残し、職員間で情報を共有し、それぞれのペースに合わせた過ごし方が出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム単位でアセスメントし、ケアマネが作成したプランをフロア会議で話し合い作成している。毎月のモニタリングで都度、プランに対しての評価もしている。	利用者、家族の意向を確認し、担当職員によるモニタリング、アセスメント、フロア会議時にはカンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成し、4か月毎定期的に見直しを図っています。利用者の様子を記すフローシートには介護計画の短期目標、サービス内容が記入されており、介護計画実施状況が記録されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は行動表、日誌、フローシートに記入し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の中からご本人の意向を聞きだし、意思決定を尊重するよう努め、共同生活の中でも柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを支えている地域資源の把握に努めている。今年度はコロナ禍の為、地域との交流は少ない状況であった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1回、かかりつけ医(前田クリニック)の往診を受けている。急変時以外にも体調に不安がある時も往診してくれる。	専門医への受診は家族が対応し事業所は状況を提供して家族と協力しながら行い、必要があれば職員も同行して状態を説明しています。法人医師、看護師により利用者全員の往診が行われており、利用者、家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診日以外においても、少しでも気になる事があればいつでも相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	毎日、お見舞いに行き情報を共有していたが、現在はコロナ禍の為、お見舞いに行けておらず、必要に応じて病院関係者と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に管理者より説明を受け、終末期の意向を聞きとっている。必要に応じ、ムンテラなどの話し合いを行い連携をとっている。	入居時に事前指定書により治療などに関してアンケートを行い、重度化及びターミナルケアに関する指針により説明し同意を得ています。利用者、家族の思いや意向に添いながら医療、事業所と連携しながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は研修等を実施できていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行ない緊急時に備えている。	年2回、昼夜想定で火災避難訓練と地震からの火災を想定した避難訓練を実施しています。お米や麺類などの食糧の備蓄をし地域住民との連携、協力体制が構築されています。	事業所内はセントラルヒーティングと成っており、冬期の停電時の対策はこれからと成っています。早期に対策の実施を期待します。また、水害等其他の災害の避難体制を職員間で周知する等、更なる災害対策強化を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けのトーンや言葉遣いに配慮している。ご本人の表情を観察し、その時にあった声掛けをしている。	利用者一人ひとりの合った声掛けの仕方、表情や行動の変化を見逃さず、見極めて自尊心を傷つけないよう心掛けています。居室での着替えやオムツ交換時などはカーテン、ドアを閉め利用者に羞恥心を感じさせないよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、会話や行動から本人の思いを読み取るほか、自ら選択できるような声の掛け方をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日など決まっている事もあるが、なるべく本人のペースに合わせ、個々を尊重しその人らしい生活が送れるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自分で選んで頂く事や、身だしなみを職員が確認し、おしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のメニュー入居者と考え食事の準備や片付けも入居者と一緒に行っている。また、一人ひとりにあった食事形態で提供している。	利用者と相談しながらメニューを決め食事を提供しています。畑で採れた野菜の下ごしらえなど職員と一緒に調理をしています。利用者が楽しめるよう流しソーメンやスイーツバイキング、漬物作りの手伝い、羊羹作りなどを行い五感を刺激して興味を持って貰えるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録している。1日の目標の摂取量に満たない場合は、補食を勧めたりご本人が好む飲み物を提供し少しでも一日の水分量が確保できるように努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な入居者の方は必要に応じ起床時、就寝時、毎食後に実施している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解する為、集計を行わない、時間を合わせたトイレ誘導を行なっている。	利用者一人ひとりのタイミングを把握して個々に合った声掛け誘導や見守りをする事でトイレでの排泄支援に取り組んでいます。パットなどの衛生用品は人目に付かないよう管理されています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供したり水分量不足にならないよう配慮したり、便秘解消の為、食物繊維をとったりしている。また、座りっぱなしにならないよう歩きかけを作る事や体操も実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決めているが入居者の希望や状態により日時を変更し対応している。	週2回を基本に利用者の希望や体調の状態を考慮し2人介助、同性介助、清拭などで入浴を支援しています。見守りの中で安心、安全に1人で入浴されている方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝は一人ひとりに合わせて支援している。また、日中でも眠気が見られる入居者には臥床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個人のファイルに綴り参照している。変化が見られる場合は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午後に余暇の時間を設けるなど気分転換につながるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響によりほとんど外出出来ない。	コロナ禍により外出や地域との交流などが思うように出来ていませんが、天気の良い日の散歩や少人数に分けての紅葉ドライブに出掛けています。また、花壇に花を植えたり水やりを毎日の日課にされている利用者もおり出来るだけ気分転換になるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もいるが、ほとんどの方は日用品や欲しい物があれば、ホームで管理している財布から支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には、やりとりが出来るよう支援している。手紙を自分で書けない方は職員が代筆している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は四季を感じられるよう季節に合った装飾をしている。昼と夜をしっかりと感じられるよう日の光の調整をしている。温湿度についても配慮している。	明るい陽差しにつつまれた居間兼食堂には季節ごとや行事などの飾り付けがされています。作品を出展していた芸術文化祭が今年度は中止となっておりますが、利用者と職員と作った鍋敷きやティッシュカバーなどの作品が置かれています。また、温度や湿度を管理して過ごし易い環境を提供しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビングは広めにとり、リビングだけでなく、廊下にもソファを設置し、思い思いの場所で過ごせるよう配慮し、気の合う方と過ごせるような空間づくりを日々模索している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や物を持参し、ご本人の気持ちが落ち着くよう写真を飾る事やレイアウトを考え、心地よく過ごして頂けるようにしている。	居室には洗面台やクローゼットが備え付けられています。利用者はこれまで使い慣れた馴染みの家具を配置し、家族の写真を飾ったりとその人らしく安心して寛げるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事を引き出し、出来ない部分にお手伝いをし出来るようにしている。		